

MIC

情報通信 vol.26

(2009年10月発行)

MOODY
INTERNATIONAL

発行

ムーディー・インターナショナル・
サーティフィケーション株式会社

大阪事務所

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪北ビル13F
Tel:06-6150-0571 Fax:06-6150-0575

◇ MIC情報通信のバックナンバーは弊社ホームページ
(<http://www.moodygroup.co.jp>)でご覧頂けます。

CONTENTS

1 お客様交流会

2 特集

3 「労働安全衛生」を考える

- これからの労働安全衛生を考える
- 事例紹介(平和建設株式会社)

4 MICニュース

- JABよりISO9001認定取得
- ISO50001規格開発情報
- MICノルウェー 世界的塗料メーカーと成約
- Q&A

5 審査の現場から

- お客様紹介
(株式会社白形傳四郎商店)
- 連載よみもの
「審査員の心理」(最終回)

6 連載よみもの

- MICリレーエッセイ
「全員参加、継続改善」
(審査員 城戸 伸治)
- 環境よみもの
「環境とISO14001」

7 お客様からのお便り

- 「建設業界に改革を」
(株式会社ワイズ)
- 「工事評価点91.6点達成」
(寺尾道路株式会社)

8 研修コースのご案内

- ちょっといっぱく
- コースのご紹介/受講生からのお便り

お客様交流会

営業部 部長 本田 彰

MIC営業部では現在12名の営業社員を全国の主要都市を中心に配置しており、新しいお客様の開拓活動はもちろんですが既存のお客様との関係づくりも大切にしています。お客様先へ訪問し、様々なニーズの発掘や長期的なWIN-WINの関係構築など、現場の生の声に耳を傾ける姿勢は非常に重要であると考えています。

その営業活動の一環として、各地域のお客様とMICスタッフ、そしてお客様同士の交流と懇親を

目的とした『お客様交流会』を各地で開催させて頂いております。各拠点の営業社員を中心に事務所スタッフも現地に出向き、今年は二月に富山・埼玉(大宮)、三月は群馬(太田)にて、六月は静岡(浜松)、七月には宮城(仙台)、そして九月には福岡と広島で実施。その他、大阪事務所では関西圏のお客様を対象に毎回テーマを変えながらセミナー形式にてほぼ隔月開催、また東京事務所でも関東近県の多数のお客様と情報交換、懇親をさせて頂きました。

参加頂いたお客様からは「今後もこのような会を続けて欲しい」という声が多くうれしい限りです。内容の充実化を図りながら未開催地域への展開も計画しており、また、この交流会で多くのお客様同士が知り合いとなり、相互事業発展のきっかけにもなることができればとも考えています。懇親会では「名刺に同じISOロゴマークを付けた同士だからこそ地元の産業発展に協力し合おう」と盛り上がる場も珍しくありません。

時には厳しいご意見を頂くこともありますが、そのような時こそMICが成長でき、またお客様との信頼関係を築ける機会と捉えています。お客様にとってMICが末永いビジネスパートナーとなるためにも、是非多くの声をお聞かせ頂きたいというのが私たちの本音です。

私たちMICは審査認証「サービス業」として顧客満足をさらに向上するべく、様々な地域で交流会を開催してまいりますので、案内の際にはお気軽に足をお運びください。

是非これからもMIC営業部と『お客様交流会』をよろしく願い致します。



労働安全衛生を考える

- 効果的活用でレベルアップを -

2008年度より、国土交通省による発注者別評価点の対象に労働安全衛生マネジメントシステムOHSAS18001の認証取得が追加され、評価方法に取り入れる自治体も徐々に増えてきました。今号では、注目が高まってきているOHSAS18001を取り上げ、また今年6月に、QMS、EMSに加えて、OHSMSを導入された平和建設株式会社様をご紹介します。



特集

1

これからの労働安全衛生を考える

厚生労働省認定 労働安全/労働衛生コンサルタント 有賀 源司

はじめに～OHSMS活用に向けて～

労働安全衛生マネジメントシステム (Occupational Health & Safety Management System = OHSMS) の認証規格はOHSAS18001です。このような認証規格があることをご存知ない方々もいるかもしれません。ISO14001とよく似た構造ですが、ISO規格になっていないため、マネジメントシステムにおける先進的な考えと、安全衛生特有の考え方が含まれています。これらの考え方を知るにつけ、他のマネジメントシステムにも活用していただきたい事項、そして多くの組織で考えていただきたいことがあります。最近盛んに論じられているISOの負のスパイラル、及びISOは効果がないとの考えの対策となるものだと考えます。

何を改善するのか？

私は平成3年2月より労働安全衛生に関わっていますが、現在まで4件の死亡労働災害を経験しています。しかしほとんどの企業では、無災害が継続している状況だと推測します。このような状況において、OHSAS18001を認証取得し、維持する意味はどこにあるのかを考え、認識する必要があります。この点が不足すれば、従来の安全衛生活動の積木をPDCAの形に並び変えるだけに終わり、有効なシステムは構築できないし、システムの有効性は向上しません。この規格のシステム構築に関わる中で、感心することは安全衛生パフォーマンスを4つの視点から監視することです。

改善が進んでいるか：目標の達成状況

プロセスの結果としての事後的指標：災害の状況と傾向、健康診断結果の状況と傾向

プロセスの状況としての予防指標：手順の順守状況、教育・内部監査等の状況

手順の有効性の状況：実施できない、あるいは効果のない手順はないか



従来の安全衛生は に重点が置かれていました。しかし前段で説明のとおり、事後的指標は0であることが多いです。「ゼロ災害の継続」の目標を掲げて意味はないことが分かります。これからの安全衛生は、 のデータを把握し、これらを改善することが重要である訳です。

それでも起きる可能性のある労働災害

いくら精緻なOHSMSを構築しても、労働災害の可能性はあります。なぜならばヒューマンエラーを行う人間に関わり、さらに製品、工程、作業方法も変化するからです。このような変化する状況に対応し、適切かつ迅速にフィットしていくためには、属人的でない管理システムが必要になり、OHSMSの構築は非常に有効になります。

OHSAS18001独特の要求事項として、責任権限の条項に「説明責任」があります。この要求に対しどのように対応するかは、いろいろな方法が考えられます。一例として、「重大災害が発生した時、現在の安全衛生対策をどのように説明するか」と解釈してもよいです。現在の安全衛生対策、教育等の妥当性をだれが、どのように説明するのか？食品問題における不祥事でいかに説明責任が果たされていなかったか、そしてその企業が受けた社会的制裁は大きなものであったことを考えた時、この言葉の重要性を認識します。

みんなちがって、みんないい

金子みすずの詩の言葉です。私達は、ともすると画一的なマネジメントシステムを当てはめがちです。しかし各社、各人の考えを反映したシステムを構築することが大切です。そのためには何を行う必要があるのか？はじめは前例として提供されたものであっても、前項の、のパフォーマンスから問題となる点を見つけ、それを地道に改善することが重要です。

現在までに関わった企業で、このような有効なサイクルが回る状態になったのは数例しかありません。何がよかったのかを考えると、企業内で形式的ではなく、正直に、が出されているように感じます。

解説させていただいた点において、OHSAS18001規格を調査され、現在の各種のマネジメントに反映することも有効であると考えます。

事例紹介

特集

2

「進化・変化していく組織を目指して」

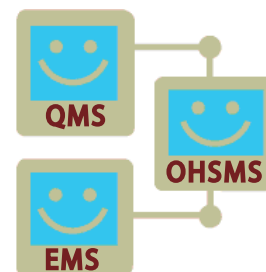
平和建設株式会社
品質・環境・労安管理責任者 藤井 正義

当社平和建設は2002年にISO9001を取得し、今年6月に7年目の維持審査を迎えました。当社の立地する山口県では平成20年度より、県発注の一般競争入札の工事は原則として総合評価方式が適用されています。ここでの技術点評価を加算する為、今年6月にISO14001とOHSAS18001も同時取得しました。

世界的不況の影響で建設業界も縮小傾向にありますが、そういう中でも発展する会社にしていきたい、変化していく組織になって勝ち残っていかなければならないという経営陣の強い思いの下、環境と労働安全衛生をシステム化し、既に導入の品質システムに組み込むためでもありました。これまでのQMSでは、当初、トップマネジメントである専務が管理責任者を務め1人で対応してきた中で、段々とシステムが浸透し、認証がステータスになってきました。そして、今回のEMS、OHSAS導入に際しては、私が管理責任者と

して業務を行うことになりましたが、真にシステムの中に組み込むには、従業員全体で取り組む必要があります。社内では、朝礼・ミーティング、工程会議、全体会議、安全衛生協議会等によりコミュニケーションを図り、社内意識向上に役立てています。また、周南市による「クリーンネットワーク推進事業」に参加し、里親となっている「清水東公園」の清掃美化活動を行うなど、ボランティア活動にも積極的に参加しています。

入社間もない私が管理責任者業務に際し、力不足なのが現実ですが、管理責任者としての役割を果たしうる力量を身につけるべく、日々切磋琢磨の毎日を送っています。



事故・災害は思わぬときに発生します。しかし、重大事故の発生のような非常事態でもない限り“安全”は重要視されることが多く、安全・無災害が当たり前との認識が時に大きな落とし穴になってしまいます。労働災害は、従業員の安全と健康に影響を与えるだけでなく、営業活動・生産の停止や対外的な影響など、コスト面、信用面でも大きなリスクになります。

労働安全衛生マネジメントシステムは、問題が発生してから対策を取るのではなく、問題が発生する前に予防的に対応するというリスクアセスメントの考え方を基礎としています。OHSAS18001はISO規格ではありませんが、同じ考え方に基づいていますので、PDCAサイクルによってリスクを低減させ、段階的に安全衛生活動の水準を向上させていくことが可能

です。自己管理責任が強く求められる現代では、従来の現場主体の部分的な安全衛生活動から、経営トップの方針に基づいて全社で体系的、効率的に労働安全衛生活動に取り組むことは、従業員の志気を高め、社会的な信頼獲得にもつながります。

また、上述の平和建設様のように、既に取得済みのISO規格に追加導入されるケースも多く、MICではOHSAS18001取得組織の半数以上が複合規格での取得のお客様になります。

総合評価点の評価対象にOHSAS18001を取り入れる自治体も増え、今後OHSAS18001を導入する組織の増加が予想されます。業種に関係なくあらゆる組織に適用可能なOHSMSを組織強化にご活用頂ければと思います。



JABよりISO9001認定取得

ISO14001に続いて、ISO9001につきましても、2009年6月24日付けにて、JAB(財団法人日本適合性認定協会)より認定を受けました。認定範囲は、ISO14001と同じく、産業分類17(基礎金属、加工金属製品)、18(機械、装置)、及び28(建設)です。この3分野に該当されるお客様は、JABのロゴマークもご使用頂けること

になります。JABのロゴマーク付の認証登録証明書をご希望の場合は、初回審査または更新審査時のタイミングで、所定の審査登録手続き後に発行致します。弊社東京営業部までお気軽にお問合せください。MICでは今後も、ISO14001も含め、認定範囲の拡大を行っていく予定です。

ISO50001(エネルギーマネジメント規格)開発情報

世界的な省エネルギー、温室効果ガス削減への大きな潜在的可能性が期待されることから、ISOでは、エネルギーマネジメントシステムの国際規格ISO50001の策定作業が進められています。

ANSI(米国規格協会)の提案をきっかけに開発を行うプロジェクト委員会(PC242)が2008年2月に設置され、現在CD(委員会原案)段階に入っており、2010年末の発行を目指して作業が進められています。エネルギーマネジメントは重要な分野であり、日本でもその策定に関するシンポジウムが今年8月28日に財団法人エネルギー総合工学研究所主催で開催され注目が高まっています。

ISO50001は、工場や産業施設、あるいは組織全体における調達か

ら使用に至るエネルギー全般を管理するための国際的な枠組みであり、導入によって技術及び経営戦略を提供し、エネルギー効率を高めるとともに、コストダウンや環境パフォーマンスの向上を図ろうとするものです。あらゆる産業分野に広く適用できることから、世界のエネルギー需要の最大60%に影響を与えることが見込まれています。他規格との親和性、統合性を与えることにより、ISO9001やISO14001に取り入れられている継続的改善やPDCAと同じ考え方のシステムとして開発される予定です。開発状況の詳細はISOのHPをご参照ください。
(http://www.iso.org/iso/hot_topics/hot_topics_energy/energy_management_system_standard.htm)

MICノルウェー 世界的な塗料メーカーと成約

MICノルウェーは、Jortun Paints(ヨートンペイント社)と、同社の世界全製造拠点における認証審査契約を結びました。ヨートングループは、ノルウェーに本拠地を置く世界的な塗料メーカーで、エッフェル塔や世界最大級の豪華客船「クイーン・メリー」、間もなく完成予定の世界一の高層ビル「ブルジュ・ドバイ」にも同社の塗料が使用されています。

製造工場では既に認証済みのISO9001に加え、全ての製造施設へのISO14001とOHSAS18001の導入に着手しており、今後2年間

で、既に取得済みの約60の認証をMICへ機関変更すると同時に、新たに約60の認証を取得する予定で進められています。現在の認証は複数の審査機関で取得しており、今回、審査機関を一社に統一することで、全施設での整合性のとれた継続的改善を目指します。

また、社内での継続的な取り組みを更に進めるため、認証審査に加えて、経営者への意識向上プログラム、世界各地のスタッフへの基礎コース、内部監査員、主任審査員研修コースも実施予定です。今回のプロジェクトが同社の更なる発展に貢献できればと期待します。

Q&A

Q

当社がISO9001を取得してから、ISO事務局として関連書類の作成を任せられ、最近「ISO管理責任者」の肩書きになりました。しかし、認証時には認められていた私の功績も、今では当たり前のようになり、運用実務に対する評価はあまりないと感じます。管理責任者として今後どのように取り組んでいくべきか、アドバイスをお願いします。

Answer

管理責任者は、単に関連業務を行う担当者ではなく、経営者に代わってシステムを確立・維持する責任と権限を与えられている執行責任者で、ISOを活きたシステムにするのかどうかのカギを握っているといっても過言ではありません。規格の原文(英文)では、Management Representative(経営者の代理)という表現をとっています。規格ISO9001の5.5.2に管理責任者の職務について規定されており、その中のb)で以下のように定められています。「品質マネジメントシステムの成果を含む実施状況及び改善の必要性の有無について、トップマネジメントに報告する。」これは非常に重要なことで、特に「…システムの実施状況についてトップマネジメントに報告する。」の部分は、ISO9001が想定するマネジメントシステムがうまく運用されるかどうかの要になっていると考えられます。

規格のプロセスアプローチの図を思い浮かべてください。組

織を表す大きな円の中に「経営者の責任」、「資源の運用管理」、「製品実現」、「測定、分析、及び改善」とある4つの四角があり、それぞれが「第5、6、7、8節」を表しています。この図の中で「測定、分析、及び改善(8節)」から「経営者の責任(5節)」に向かう太い矢印がありますが、まさしく、この部分は、システムの実施状況(システムの測定、分析、及び改善)が経営者に報告される(情報を入力)部分です。この報告(情報の入力)は、経営者が効果的な意思決定を行えるようなデータ及び情報の分析に基づいていることが肝要です。管理責任者は、誰よりも、規格の第8節に鋭敏でなければなりません。

経営者は組織の経営のため多忙であり、システムの維持・管理は「私の代わりに誰かに任せる」ということになるわけです。その職務を担う人がManagement Representative(管理責任者)ということになります。

株式会社白形傳四郎(しらかたでんしろう)商店様は、お茶の町静岡の中心にお店を構える創業90余年の老舗製茶問屋です。2008年に品質/環境マネジメントシステムを複合取得されました。

お茶の世界は職人的な部分も多いことから、導入には当初戸惑いもあったそうですが、これまでの感覚のみでの品質管理から、自分達の基準作りへ広げて全員で対応していく中で手応えを感じられているとのことでした。

先日行われた第1回目の維持審査では、茶園の育成段階から製造、貯蔵、配送、そして社内環境に至るまで徹底した品質管理が見られ、8.2.3 プロセスの監視測定では、工程毎に何度も品質鑑定(テイスティング)を繰り返しながら、最高の味を求めておられました。このような品質管理の下、「このお茶なら必ずご満足頂ける」という自慢のお茶を、全国各地そして世界各国のお客様に届けられています。「茶の心を静岡から世界へ」をモットーに日本茶の輸出にも積極的に取り組まれています。輸出の際には、特にISO9001/ISO14001のダブル取得が評価されているそうです。

伝統文化である「お茶」を日本のみならず世界各国、そして次世代の子どもたちにも確実に伝えていく事を使命と考えられている会社では、大塚喜美江常務を中心に、お茶の



左)店舗(静岡市葵区)



右)同社キャラクター“傳(でん)ちゃん”

セミナー等を通じて普及啓蒙活動に取り組み、また、環境活動としても、お茶の更なる普及により茶畑があたり一面に広がっていく、まさしく「茶畑による緑地化」も目指されています。

社訓「お茶の伝承を守る」、そして、初代傳四郎氏の遺訓「悪い品を売るくらいなら商いを止めよ」を堅持し、お茶本来の味、香り、色、形状にこだわり続けられる会社では、豊富な経験を持つ茶師が、更に広く全世界のお客様へとの思いで品質の維持向上を目指されています。今後の同社の益々のご発展に期待です。

<http://www.shirakata.co.jp/>

審査員の

心理

第11回

「最後に」

連載読み物

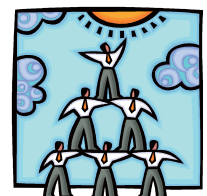
MIC 審査員室長 成毛 秀雄 Hideo Naruke

ISOマネジメントシステムの認証審査は、世界中の様々な国々において実施されており、国際的な制度として発足し、20年以上の歳月が経ちました。ISO認証制度に関わる諸機関として、まず、ISO(国際標準化機構)、IAF(国際認定機関フォーラム)、認定機関、審査機関があり、また、審査員の登録については審査員登録機関があります。認証審査に関わる規格としてISO9001、ISO14001などの「システムの要求事項に関する規格」があり、そのほかマネジメント審査を行う審査機関の活動に関する規格があります。認証審査を行う審査員は、認証制度の中に組み込まれた人員であり、生まれも、性格も、職業経験も、年齢も異なりますが、規格や諸機関の規定に従い審査活動を行っております。

この制度では、様々な国々、民族、文化、言語を通じ、あらゆる産業分野を含み、組織の規模も小さな組織から巨大な組織までどのような組織にも適用されます。審査員はこのような組織のシステムに対し、認証制度の枠内で審査と

いう特殊な活動を行っています。こうした中で、規格の理解、審査員の力量評価の方法、認証手順を出来る限り標準化しようとしています。認定機関、審査機関にもそれぞれ求める価値観、方針の微妙な違いというものもありうでしょう。多くの審査員は、この認証制度に組み込まれた中で、各審査機関の方針に基づき、自分の職務を全うしようと努力を重ねております。

このシリーズでは、審査現場で、審査員がどのように顧客と対応し、どのようにシステムの中の事実を理解し、認識していくかということ審査員の心理という側面を主眼として記述を進めてきました。内容は多くの審査員、コンサルタント、事務局のスタッフとのインタビュー、筆者自身の経験、また、他の審査員の行動の観察、その他外部から得られる間接的な情報を基にしました。審査前の準備や対応、またISO業務へご活用頂けたら幸いです。



MICリレーエッセイ ②④

審査員からのエッセイをお楽しみください。



From 茨城県ひたちなか市
城戸 伸治
(きど のぶはる)



PROFILE

専門分野 ISO9001 - 設計・開発、機械、電気、電子
経歴 日立工機株式会社、MIC審査員(現職)

「全員参加、継続改善」

納豆で有名な茨城県水戸地区の出身です。納豆は体に良い食品で、特に“ねばり”の成分が体に良い効果をもたらしているとされています。是非健康のためにも水戸納豆をご賞味ください。

審査活動を通して、数多くの会社幹部の方々とお会いしてお話をさせて頂きました。人は出会いにより大きく成長していくものと思っております。この審査のおかげで、多くのことを学ばせて頂きましたことを感謝申し上げます。

未曾有の経済不況の中で各企業とも大変苦労されております。こうした時期では特にISOを有効に活用して頂くことが大切であると感じております。常に小さな改善の積み上げが大切です。目標も高めの目標を掲げ挑戦することが大切かと思えます。ISOでは目標管理と継続改善が求められます。挑戦すること、現状の変革を図ること、これは何時の時代でも変わらぬ課題ですが、特に不況のこの時期には、欠かせぬ課題で、小さな努力、小さな改善の

積み上げで目標を達成していくことが、ISO活動で一番期待されることと思えます。

成長する企業とするには、(1)経営環境への的確な対応、(2)組織の能力の強化、(3)人員の高い志気、能力が大切と思っています。これらを達成する基本は、目標意識の保持、挑戦するISO活動が基本となると思っています。

納豆のような“ねばり”で、全員参加で、継続改善で、アップグレードを目指しましょう。

連載「環境とISO14001」②④

第24回 「ISO14001の効果的な運用(1)」

MIC環境審査員顧問 郷古 宣昭 Nobuaki Goko

しばらくISO14001から遠ざかっていたので、今回はISO14001の効果的な運用について述べたい。ISO14001の運用を数年経ている組織がその活動を振り返ってみる契機となれば幸いです。

1. ISO14001で何をやるの？

この答えは規格4.2項「環境方針」で規定されている3つのコミットメントから知ることができます。3つのコミットメントとは以下のことを言います。

- ① 環境汚染を予防する。
- ② 環境法規制を順守する。
- ③ これらを実施する仕組みを継続的に改善する。

1-1 汚染の予防

「汚染の予防」とは狭義では油の流出など環境汚染トラブルを予防することですが、規格3.18の定義では「有害な影響を低減するために、あらゆる種類の汚染物質又は廃棄物の発生、排出、放出を回避し、低減し、管理するためのプロセス、操作、技法、材料、製品、サービス又はエネルギーを使用すること」としており、広く地域環境や地球環境への汚染の予防をも意味しています。一般に言う

「環境保全活動」と考えて良いと思います。

それでは、環境保全活動の中で何を選択すべきでしょうか。2つの観点から選択できます。まずは組織にとっての重要課題が優先的に採り上げられます。例えば、原材料に有害化学物質を含んでいるなら、代替原材料の開発が優先課題となります。コスト削減が重要課題であれば不良品削減による歩留まり向上や生産性向上、受発注手順の標準化による作業効率の向上なども格好のテーマになります。

もう1つの観点は、環境影響の大きさです。環境側面を評価するとエコ製品や配送の最適化など間接的影響を持つ環境側面が意外に大きな環境影響を与えることがわかります。自社の活動の中に生ずる環境影響に限らず、間接的に影響を与える活動についても積極的に取り組むことが望まれます。

1-2 法規制の順守

「環境法規制」とは正確には「法的及びその他の要求事項」であり、「その他の要求事項」とは市町村や特定地域との合意事項、工業団地組合からの規制事項、規制以外のガイドライン、所属業界の公約や取り決め事項、

更には特定顧客の要求事項や自主的に取り組む適用外法規制事項など多岐に及んでおり、その例は付属書A3.2に解説されています。

顧客要求事項まで含めたらキリがないと思うかも知れません。実際には、どこまで広げるかは組織の裁量に委ねられています。これに限らず、規格要求事項をどのように満たすかは組織が自ら決定することが求められているのです。

(4.1一般要求事項)その真意は、自主的に順守すべき事項を法規制以外にも広く定めて、確実に守るべき事を意図していると言えるでしょう。

1-3 継続的改善

「継続的改善」については規格3.2に「環境パフォーマンスを達成するために環境マネジメントシステムを向上させる繰り返しのプロセス」と定義されています。「繰り返しのプロセス」とはPDCAをドラ

イブすることで、すがこれについては次回説明します。





お客さまからのお便り



建設業界に変革を

株式会社ワイズ (ISO14001:2004、ISO27001:2005、OHSAS18001:2007 認証登録)
営業部 丸山 匠

株式会社ワイズは、「建設業界に変革を」を合い言葉に最新の技術と情報で建設業界をサポートさせて頂いている会社です。建設関連ソフトウェアの開発・販売、PC・CALS関連セミナーの開催、CALS対応技術者派遣、ISO関連業務、工事安全用品の開発・販売など様々なサービスを行っており、平成16年8月には子会社のワイズ公共データシステム株式会社が国土交通省登録の経営状況分析機関として業務を開始しました。

このような様々な業務に環境対策、労働安全衛生対策を取り入れようと平成14年2月にISO14001、OHSAS18001を同時取得し、平成17年6月には情報セキュリティ対策としてISO27001(当時BS7799-2)も認証取得しました。この3つの側面を考慮し管理対策を講じながら業務に取り組んでおります。

安全対策では建設業、製造業などの業種と比べると

リスクの少ない業種ですが、社内グループウェアを利用して危険と特定された業務とその管理対策などの情報を共有して常に誰でも確認できるようにしております。予防処置報告や不適合報告では画像も添付して全社員に報告し、原因追究や是正処置の適切な対策を講じる為に役立てております。今後も統合マネジメントシステムを活用して業務改善に取り組んでいきます。



<http://www.wise.co.jp/>

工事評価点91.6点達成

寺尾道路株式会社 (ISO9001:2000認証登録)
川見 敏朗

当社は、京都府南丹市で建設業を営んでいます。「顧客要求事項を満足する建設物を安全に工期内に施工する」を品質方針に、ISO9001に取り組み7年です。品質目標には、「安全がすべてに優先する」を掲げ、部署品質目標として、「工事評価点75点以上を目指す」を取り上げています。

先日、京都府広域振興局発注「治山事業(復旧治山)及び単費自然災害防止事業」を担当し、工事評価点91.6点を獲得しました。

当工事の概要は、地すべり性崩壊を起こした不安定斜面を、安定な勾配で切取、安定した森林に復旧する事です。施工に関しては、工事場所直下にリサイクル工場があり、落石等による危害を及ぼす事が十分考えられました。その為、落石防止の仮設防護柵(京都府産間伐材使用)を100mにわたり設置(京都府産木材証明書及びウッドマイル-ジCO₂計算依頼)しました。また、着手切取残土搬出用仮設道路は、地元関係者の協力を経て、急勾配ではありましたが、不整地運搬車は無論のこと、ダンプカーであっても走行出来る道

路を確保する事ができました。残土受入先に、切取土は「その日の内に(良質土)運搬」を合言葉に、又、運搬に際しては以前運搬台数の確認が明確で無いとの指摘があった為、土砂搬入整理券を発行し、受入先にダンプごとに確認印を頂き台数確認を行いました。

上記計画をすべてクリアして、落石等による事故も無く竣工することが出来た結果が、奇跡の工事評価点につながったと思います。今後もこれに満足することなく、品質目標の維持向上に努め、更なるシステム改善に取り組んで参ります。



[参考] 2006年7月発行MIC情報通信13号では、工事評価点95点を達成された境港土建株式会社様を取り上げています。(MIC情報通信バックナンバーは弊社HPにてご覧頂けます。)



ご存知の方も多いかと思いますが、毎年10月は経済産業省を含むリサイクル関係8府省 が定めた3R推進月間です。3Rは、リデュース(Reduce:ゴミの発生抑制)、リユース(Reuse:再使用)、リサイクル(Recycle:再資源化)の略称で、これらのRの実践により限りある地球の資源を有効に繰り返し使う社会(=循環型社会)を形成しようとする取り組みです。

今号は、環境活動をされているお客様をご紹介させていただきます。特集記事でご紹介の平和建設株式会社様が参加されているのは、ボランティア清掃活動の一つ「アダプト・プログラム」です。アダプト(adopt)は英語で養子にするという意味で、公共施設を養子にみたく、市民が里親となって環境美化を行い、行政が支援する制度のことです。1985年頃にアメリカでこのシステムの原型となるプログラムが生まれ、その後全米から世界へ普及し、日本にも1998年に導入されて以来取り入れる自治体が増えています。また、EMSを取得されている瀬田アーバンホテル様(大津市)では、環境保全活動の一環として「カーボンオフセット宿泊プラン」の販売を開始されました。これは、宿泊時に生じる二酸化炭素排出量を同ホテルが購入した排出枠で相殺(オフセット)するプランで、プラン希望のお客様にオフセット料金の半額を上乗せする代わりにグリーン電力証書が取得できるとのこと。残る半分の費用は同ホテルが負担され、お客様との環境意識の共有化をはかられており、「地球に優しいホテル」を目指して環境活動を展開されています。(http://www.seta-urban.co.jp/)

前述の3Rは、最近では更に、リフューズ(Refuse:不要なものは購入しない)、リターン(Return:ゴミになるものは購入先に戻す)、リペア(Repair:修理)、リフォーム(Reform:改良)、リファイン(Refine:分別)などから2Rを加えた様々な組み合わせの5Rもあります。独自の“R”を取り入れることで、発展した活動につながればと思います。

関係8府省:内閣府、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省

研修コースのご案内

内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

● 内部監査員コース 9001/14001/18001 (2日間)

【開催地】 東京・大阪

【対象者】 品質/環境/労働安全衛生マネジメントシステムの導入を予定/検討しているシステムをより効果的に運用したい効果的な内部監査を行いたい

審査員研修コース

審査員への最初のステップです。合格すると、審査員補になる資格が得られます。内部監査リーダーの方にもお薦めです。

● ISO9001:IRCA認定審査員研修コース (5日間)

● ISO14001:IRCA認定審査員研修コース (5日間)

【開催地】 東京

【対象者】 審査員のみで内部監査を行いたい内部監査グループのリーダーに任命された将来審査員を目指している

～ 受講生からのお便り ～

ISO9001内部監査員コースを受講して

品質内部監査員コース(2009年5月)受講
中村清之税理士事務所 総務 木村 千代子

私の勤務する中村清之税理士事務所は、従来からの顧問先様への税理士業務・社会保険労務士業務に加え、現在は地方自治体に対する公会計のコンサルタント業務も進めています。活動の領域が広がり事務所全体が忙しいながらも活気溢れています。2000年にISO9002の認証を受けていますので、事務所全体の工程管理は行き届いており、適宜に厳格な内部監査が行われています。ただ私自身はISO9001については、今迄は監査を受ける立場であり、その趣旨、目的についてもミスを防ぐ事ぐらいの認識しかありませんでしたので、今回の内部監査員の研修は非常に勉強になりました。

顧客満足を得て経営に寄与するために、全員が品質方針、目標を意識して、品質の維持、改善を図る重要性を学ぶことが出来ました。模擬内部監査のロールプレイングでは、内部監査の目的が監査する側とされる側がお互いにコミュニケーションをとりながら、規格を基準に、より良い方法を提案し、実現する手段であることが実感できました。今後は今回の研修で学んだ事を実践で役立てたいと思います。

さて、ここ京都ではまもなく祇園祭、葵祭とともに京都三大祭に数えられる時代祭りの季節。当事務所近くの御池通りでは、動く一大時代絵巻が繰り広げられます。機会があれば是非京都にお越しください。

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
<http://www.moodygroup.co.jp>

東京本社

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2
日本橋Nビル4F

TEL:(03)3669-7408 FAX:(03)3669-7410
E-mail:mi-certification@moodygroup.co.jp



大阪事務所

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪北ビル13F

TEL:(06)6150-0571 FAX:(06)6150-0575
E-mail:mic-osaka@moodygroup.co.jp